



重度障害者の

兄の世話をする

明君 (仮名)

市内花岡地区に住む明君(十五歳)のご家庭は、祖母、父、母、姉、兄の六人家族です。

明君のお兄さん(二十歳)は、全面介助を要する重度の脳性小児マヒ。八歳のときに秋田市にある太平療育園に入所(今年三月で卒園し、現在は身障者職業訓練センターに入所中)しました。毎月第三日曜日の面会日になると、家族は何をさしおいても会いに出かけたものでした。お兄さんはその都度家族に「街に行きたい。デパートを見て回りたい」と言葉にならない言葉で訴えるのだそうです。明君は、ためらう両親をも引っぱってお兄さんの車イスを押してデパートや街中を見せて歩き回りました。「ちよつとはずかしいと思つたときもあつたけど、自分の兄のためだと思えばなんでもありません。街を歩くとジロジロ見る人もいますが、ぼくはその人たちが

「人を信じ、人を愛し、人につくす」——当市は三月九日に「小さな親切」実践都市を宣言しました。私たちが毎日生活する中で、小さな親切や心温まる話に出会うことが多いと思います。そこで、今回から「ふれ愛——小さな親切」の街」と題して心温まる話や出来事をご紹介していきます。

逆ににらみ返してやりました」と明君はキツパリ。

お兄さんは、正月や盆には家に帰ってきます。明君も学校が休みになるので一日中お兄さんの身の回りの世話をします。「このときばかりは友だちが誘いに来ても遊びに出て行かないんですよ」とおばあさん。「風呂に二人で入ると一時間以上も入っています」とお母さんは目を細めます。夜は二階の自分の部屋に背負って行き二人で寝ます。「特に話をするわけではないけれど、ただなんとなく一人ていたいの」と明君は話します。

「わたしたちから、兄のめんどうを見てくれといつたわけではありません。明は自分から進んでこまめに世話をしてくれるので助かります」とお父さんはいいます。



“やさしさを行動に”

＜大館市「四季の観光写真展」＞



公募していました「四季の観光写真展」の入賞者が決まりました。入賞作品は5月1日から3日まで正札竹村銀サロンに展示します。

推薦に田村栄さん(上代野)の「岩神沢の四季」

(カラー・スライド・4枚組)

理容奉仕を続けて17年

～なごやかボランティア～

「老人ホームに理容奉仕に行く日は毎月第四日曜日と決めているんですが、お年寄りたちから早く来てほしい、と催促の電話が来ます」となごやかボランティアの会長を務める三ツ倉広蔵さん。なごやかボランティアは、老人ホームの入居者の理容奉仕を続けて十七年になります。スタート当初は、理容組合のお弟子さんたちの練習にと始めたそうです。その後、組合員の有志でボランティアグループをつくり十人で活動しています。同会の皆さんが老人ホームに着

くと、お年寄りたちはにこやかな笑顔で迎えに出てきます。散髪するのは男女合わせて八十人。世間話や昔話をしながら散髪し、午前中いっぱいかかります。ときには身の上相談をもちかけられることもあります。

「老人ホームに行くとき一人ひとり元気を確かめます。しかしこの十数年間で入居者の皆さんはガラリと変わってしまい、悲しい気持ちでいっぱいです。私自身、父を五十六歳、母を四十歳で亡くし親孝行らしいことはなにもできませんでした。これからは親孝行のつもりで入居者の皆さんを励ましながらか活動を続けていきたいと思つています」と三倉さんは話していました。同会は、五十六年に市政功労、六十一年には小さな親切実行章を受賞しました。



▼特選「雪の出初め式」カラ 下平 富弥さん(大町)



▼特選「夏まつり女三態」(白黒) 木村 錦悦さん (御成町1丁目)



▼特選「大文字焼」カラ 貝森 喜作さん (御成町一丁目)

◆「ふれ愛——“小さな親切”の街」……市民の皆さんが会った心温まる話や出来事を募集します。600字以内にまとめ住所、氏名、電話番号を記入のうえ広報係までお寄せください。